

編集後記

今年度の活動を振り返っておこう。

まず、一月一日に、レクチャー公演「琉球舞踊の世界―「祈る」身体のごころと形―」を開催した（主催 本学キリスト教文化研究所、共催 本学音楽科、協賛 本学生涯学習センター）。講師は、波照間永子氏と志田真木氏である。

波照間氏は、現在、明治大学情報コミュニケーション学部准教授であるとともに、琉球舞踊重踊流師範でもある。御専門は舞踊学で、沖縄をはじめアジア太平洋地域の舞踊を研究されている。二〇〇二年には比較舞踊学会研究奨励賞を受賞、二〇〇六年には沖縄文化協会賞（仲原善忠賞）を受賞されており、研究者としても舞踊家としてもすばらしい方である。

志田真木氏は琉球舞踊重踊流の二世宗家であり、三歳から母親でもある琉球舞踊家の志田房子氏に師事して琉球舞踊の道に入った。一九九八年には琉球舞踊保存会伝承者となり、二〇〇五年度文化庁芸術祭賞新人賞受賞、二〇〇八年度沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞、二〇〇九年度文化庁芸術祭賞優秀賞受賞など、輝かしい受賞歴をお持ちである。現在も、国内外で幅広く活躍されている。

公演では、波照間氏が琉球舞踊の歴史や特徴を説明され、志田氏が実演するというスタイルで、琉球舞踊の魅力を学ぶことができた。お二人にはあらためて感謝申し上げます。

次に、一月二〇日から二四日にかけて実施された、生涯学習講座「知りたいっちゃ沖縄、行きたいっちゃ沖縄」とのコーポで実施した沖縄ツアーである。今年度は一月二〇日から二四日かけて実施した。今回については、「島」をテーマに石垣島と竹富島、そして沖縄本島を巡った。今回のツアーは、これまでにもお世話になっている琉球大学教授の山里純一氏から「石垣島、竹富島なら案内しますよ」という実在にありがたいお話があったことがきっかけとなって実現した。私たちは石垣島御出身の山里氏の御案内で石垣島のバンナ岳からスタートして「石垣やいま村」、川平湾を経て、「野底マーペー伝説」で知られる野底岳、さらに平久保半島の先端にある平久保灯台までめぐり、石垣島北部の久宇良岳のふもとにある「あいなー石」（あいなーとは花嫁のこと）、大浜の海岸にある津波石やオヤケアカハチの「足跡」などを見学した。行く先々でうかがう島の伝説や民話は非常に興味深いものであった。なかでも参加者の心に深く染み込んだのが、野底岳のふもと、サトウキビ畑の中で聞いた山里氏の「ついでなら節」であった。「ついでなら節」は「野底マーペー」伝説の主人公カニムイとマーペーの悲恋物語を歌にしたものだが、山里氏が三線を弾き引き切々と歌うその歌とメロディに参加者は釘付けとなった。今回のツアーの中でも最も心に残る思い出である。なお、山里氏は、御多用の中、ツアー三日目の「浜比嘉島・平安座島・宮城島・伊計島」巡りにもお付き合いたい。ここに記して深く感謝申し上げます。

なお、山里氏には本共同研究の始まりの頃からいろいろとお世話になっているが、このツアー中、山里氏がこれまでの二〇年以上に及ぶ私たちとの活動を写真におさめた貴重なフォトブックを持ってこれ、これまでの思い出話に花が咲くとともに、これからも新しい思い出を作っていこうと話が弾んだ。来年も再来年もひとつひとつよき思い出を刻んでいきたいと思う。

（文責 今林直樹）